

「研修」は、県内公立学校の管理職と教育行政職のほぼ全員が受講しています。この研修は先駆的な研修として、全国の教育委員会関係者から評価をいただ

いています。また、県立教育研修所の心の教育総合センターでは、本学教員も入って心の教育の開発的研究や研修、啓発に取り組んでいます。さらに、県立教育研究所や嬉野台生涯教育センターとの実践的な共同研究（公財）県生きが創設協会との県民連携講座も実施しています。

井戸 本場にいろいろな分野で兵庫教育大学の協力をいただいています。引き続き、確かな学力と豊かな心を育む教育の推進をはじめ、近年大きな社会問題となっている「いじめ」問題への対策や特別支援教育にかか

る教員の専門性の向上、子育て支援人材の育成や資質の向上などの面でも連携できればと考えています。

公立大学法人へ移行しました。が、どのような大学を目指すのですか。

井戸 大学の自律性を高めて、学生や地域に魅力ある大学づくりを進め、業務運営の効率化を図るために移行しました。6月には平成30（2018）年度までに達成すべき中期目標を策定しました。総合大学としてのメリットを生かしながら、国際的水準の教育・研究や人材育成とともに地域に根差し、地域の期待に応える大学を目指します。これまでの伝統と強みを生かした個性、特色豊かな大学づくりに取り組めます。兵庫教育大学と県、県立大学が連携して、教育の質の向上や地域連携の面で何か形になるものができればいいですね。

加治佐 現在、県立大学をはじめ教員養成課程がある県内の公立5大学や県、神戸市教育委員会と共に教員養成高度化システムモデルを構築し、発信する「大学間連携共同教育推進」

事業」を展開しています。もちろん、県立大学とはこの先もさらなる連携・協働に取り組むたいと考えています。

—— 大学改革が急務とされる現在、学長は兵庫教育大学の目指すべき方向性をどう考えていますか。また、知事は兵庫教育大学にどのようなことを期待されますか。

加治佐 これまで通り、学校現場に密接に関連した実践的な教育研究に取り組み、教育委員会等との連携・協働によって教員養成の質的転換と研修機能の強化を図るとともに、新しいカリキュラムや教育方法を主体的に改善、開発する先駆的・先導的な教育研究活動を推進していきます。これらの取り組みを通して、教師教育の実践と研究における全国拠点（ナショナルセンター）ならびに地域拠点（リージョナルセンター）となり、「教師教育のトップブランド」となることを目指していきます。

井戸 新しい兵庫づくりの主役は県民一人一人です。自分が生まれ、育ち、暮らしている地域への愛着や思い入れがあるからこそ、地域の将来を考え、さまざまな課題に取り組む活動が生まれます。その鍵を握るのは子どもたちです。多様な体験教育や地域活動を通して、地域の豊かな自然や歴史、文化などに触れ、知る機会を広げて、「ふるさと意識」を育んでいく必要があります。それだけに35年もの間、

兵庫県の教師教育をリードしてきた兵庫教育大学には、新たな兵庫づくりの推進役を担っていただきたいです。開学35周年を契機に、これまで以上に時代の変化に対応できる指導力、実践力のある素晴らしい教育者を輩出されることを大いに期待しています。

—— どうもありがとうございます。



特別座談会

井戸敏三氏

兵庫県知事

加治佐哲也

兵庫教育大学長

兵庫県と兵庫教育大学との 連携・協働について

兵庫教育大学では昭和53（1978）年10月の開学以来、兵庫県や県内自治体と連携して地域の教育力の発展に向けた活動に取り組んできました。開学35周年を記念し、井戸敏三知事をお迎えして、これからの兵庫県と兵庫教育大学との連携・協働について、加治佐哲也学長と語り合っていました。

加治佐 先の知事選挙で見事4選を果たされ、心からお祝い申し上げます。

井戸 ありがとうございます。知事としての新しい任期がスタートしました。日本の縮図、と言われ、阪神・淡路大震災をはじめ幾度の困難を越えてき

ました本県として、21世紀兵庫長期ビジョンが描く「創造と共生の舞台・兵庫」の実現に全力を尽くしますのでよろしく願います。

——兵庫教育大学は今年10月で開学35周年を迎えました。

加治佐 本学は昭和53（1978）年10月、現職教員に研修・研鑽の機会を提供する新構想の教育大学として開学しました。これまでに8千人を超える大学院修了生と5千人を超える学部卒業生を輩出しています。彼らの多くが学校現場や教育行政の第一線で活躍しており、教員の資質能力の向上に資する本学のミッションが果たされている証であると思っています。

井戸 早いものですね。当時、本県は中国自動車道の県内全線開通に合わせて、東播磨内陸研究学園都市群構想を策定し、新構想の兵庫教育大学の誘致を進めました。開学以来、まさにわが国の教師教育のトップランナーであり、また本県の教育力の向上に貢献いただいています。兵庫教育大学の卒業者で就職に就いた約8割、修了生の約6割の方が県内で就職しています。また、本県から大学院に派遣した多くの現職教員の皆さんは修了後、学校現場などの中核として活躍されています。

——兵庫県と兵庫教育大学はさまざまな連携事業に取り組んでいます。

加治佐 本学は教員養成大学

として、地域社会の教育や文化の進展に寄与する事業に取り組んでおり、兵庫県ともさまざまな連携・協働事業を行っています。平成16（2004）年度から県教育委員会と共催している「学校管理職・教育行政職特別

いどとしぞう 昭和20（1945）年、新宮町（現たつの市）生まれ。43（1968）年、東京大学法学部を卒業し、自治省に入省。自治大臣官房審議官を経て平成8（1996）年、兵庫県副知事に就任。13（2001）年、兵庫県知事選で初当選し、今年7月に過去最多得票で4選を果たす。22（2010）年からは関西広域連合長も務めている（現在2期目）。





事業として、県内の5公私立大学と兵庫県・神戸市教育委員会と共
に教員養成高度化システムモデル
の構築・発信事業に取り組んでい
ます。

24(2012)
年度から文部科
学省の大学間連
携共同教育推進

③ 大学間連携
事業

それぞれの市町
との共催事業も
実施しています。

北播磨地域5
市1町と連携協
力協定を締結し、
連絡協議会を設
置。北播磨地域
の教育、学術、文
化の進展に寄与
する事業を展開
しています。また、

② 地域連携事業
北播磨地域5市1町と連携協
力協定を締結し、
連絡協議会を設
置。北播磨地域
の教育、学術、文
化の進展に寄与
する事業を展開
しています。また、

とから、も社
会が大学に求め
るミッションの変
化に伴い、大学の
社会貢献事業の
在り方は変わって
いくことが予想
されます。社会の
要望に応じてい
くためには他大
学、教育機関、自
治体等との連携
協力がますます
必要になってくる
と考えられます。

④ 地域交流推進
センターによる
地域貢献事業

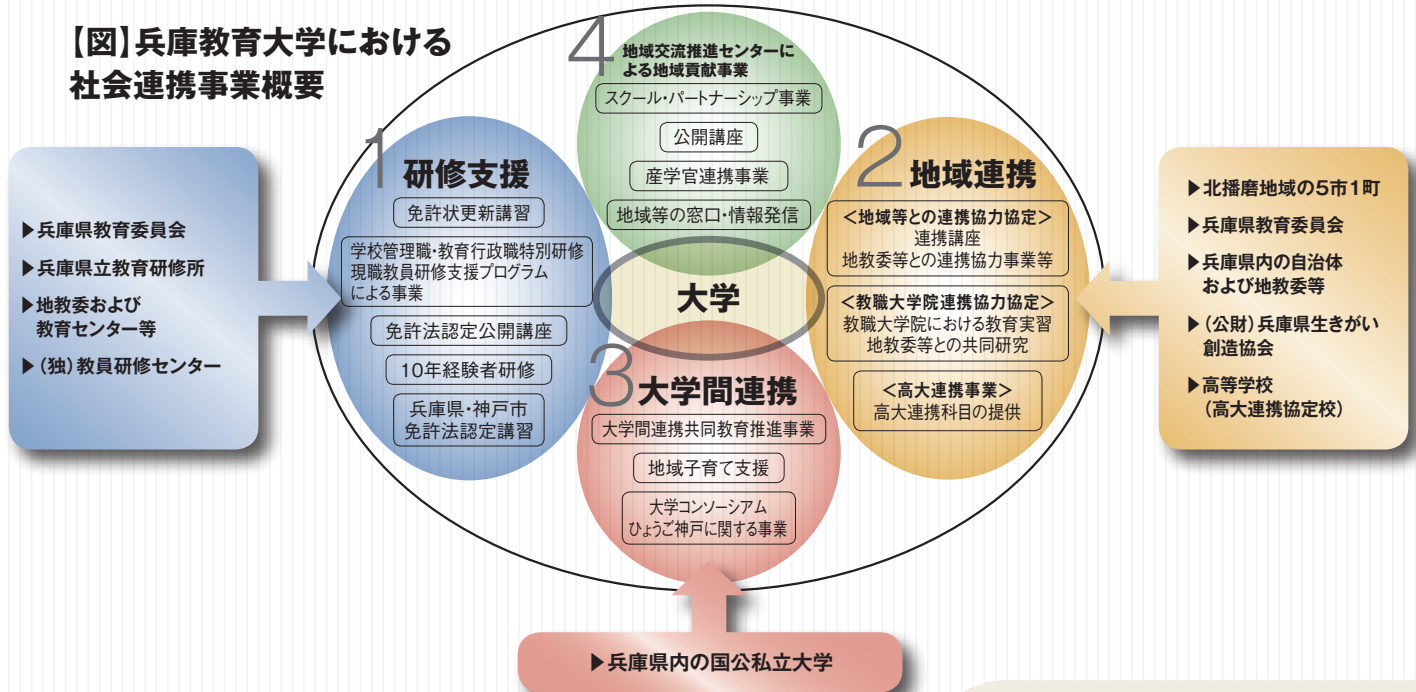
センターは地
域との窓口とし
て、学校現場の
研修や地域の生
涯学習活動の場
に大学教員を派
遣するスクール・
パートナーシップ
事業などを実施
しています。

これからの社
会が大学に求め
るミッションの変
化に伴い、大学の
社会貢献事業の
在り方は変わって
いくことが予想
されます。社会の
要望に応じてい
くためには他大
学、教育機関、自
治体等との連携
協力がますます
必要になってくる
と考えられます。

④ 地域交流推進
センターによる
地域貢献事業

センターは地
域との窓口とし
て、学校現場の
研修や地域の生
涯学習活動の場
に大学教員を派
遣するスクール・
パートナーシップ
事業などを実施
しています。

【図】兵庫教育大学における 社会連携事業概要



兵庫教育大学

やす だ まさ よし
安田正義氏
加東市長



昭和29(1954)年、社
町(現加東市)出身。48
(1973)年県立社高
校を卒業し、社町に入
庁。同町理事、加東市
助役・副市長などを経
て、平成22(2010)年
に加東市長に就く。

新たな地域交流で「輝く加東」を目指す

兵庫教育大学は、小学校および幼稚園の教員を養成する学部と、主として現職の教員が研修・研鑽を行う大学院を持つ大学として、昭和53(1978)年に加東市(当時は社町)下久米地区に開学されました。開学当初から地域に開かれた大学であることを目指し、大学施設の開放や公開講座などを実施されています。また、加東市でも兵庫教育大学の立地を活かし、兵庫県の「緑の回廊構想」や「東播磨内陸学園都市構想」を基調に、他地域に先駆けて「産学住一体の学園都市」の建設を推進し、兵庫県の学園都市構想の中核都市として大きく発展してきました。

近年の地方分権の進展や社会構造の変化に伴い、市民の行政に対するニーズは複雑・多様化し、これまでのように行政だけの取組では、十分に応えることが難しくなっています。言うまでもなく、まちづくりは行政のみで完遂できるものではなく、あらゆる主体との「協働」が必要であり、平成25(2013)年3月に策定し

たまちづくりの指針「加東市総合計画・後期基本計画」においても、行政と共に市民や事業者をはじめ、あらゆる主体との協働によるまちづくりが必要であると明記しています。

このような状況の中、多様な資源や人材を持つとともに、地域に密着した活動を展開される兵庫教育大学は、加東市のまちづくりにおいて必要不可欠な存在となっています。加東市では、こうした交流・連携をさらに推進するため、兵庫教育大学をはじめ市内で活躍される各種団体と連携し「輝く加東まちづくりコンソーシウム」を設立し、加東市一体となったまちづくりを進めています。

兵庫教育大学にはより一層地域に開かれた大学として、行政や地域との連携をより強力に進め、専門的な知識のみならず、学生の若い力をまちづくりに活かしていただき、加東市が目指す「このまちに住んでよかった、このまちに住み続けたいと思える『輝く加東』」の実現に、今後も共に取り組んでいただけることを期待します。

開学
35周年
特集

兵庫教育大学の 社会貢献事業の歩み



いわさ ふみお
岩佐文雄
兵庫教育大学企画課長

昭和53(1978)年10月に開学してから平成13(2001)年ごろまで、兵庫教育大学の社会貢献事業といえば市民向けの公開講座が中心で、これは全国の国立大学のほとんどがそつでした。

社会貢献事業の幅が広がったのは14(2002)年、文部科学省が

- 特色ある大
- 学教育改革
- 推進の一環
- として「社
- 会・地域・大
- 学間の連携
- 強化による
- 地域貢献特
- 別支援事業
- に対する支
- 援」を創設



←公開講座
「ガムランはともだち」

してからです。兵庫教育大学では自治体等との連携の窓口として「地域交流推進センター」を設置。兵庫県と協議を重ね、学校現場の

課題解決の支援など教育機関のニーズに応えるとともに、地域や教育委員会等との連携協力の推進を図り、地域の教育や学術、文化の進展に寄与することを目指した九つの社会貢献事業を文部科学省に申請し、15(2003)年度に採択されました。

また、時期を同じくして、県立教育研修所と県立嬉野台生涯教育センターとの共同研究事業および、現職教員の研修を支援するための現職教員研修支援プログラムに関する調査研究事業を開始しました。

17(2005)年には、中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」で「当然のことながら、教育や研究それ自体が長期的観点からの社会貢献であるが、近年では、国際協力、公開講座や産学官連携等を通じた、より直接的な貢献も求められるようになっており、

こうした社会貢献の役割を、言わば大学の『第三の使命』としてとらえていくべき時代となっているものと考えられる」とされ、「社会貢献」が大学ミッションの一つとして明確に位置付けられました。

兵庫教育大学の社会貢献事業は14(2002)年からほんの数年で、単独実施中心から、地域や教育委員会等との連携協力で取り組む形へと変わっていきましました。

現在の兵庫教育大学の社会連携事業は、主に①研修支援事業②地域連携事業③大学間連携事業④地域交流推進センターによる地域貢献事業から成ります【図】。

① 研修支援事業

代表格は、兵庫教育委員会との共催で16(20



←学校管理職・教育行政職特別研修

なかすぎ たかお
中杉隆夫氏
姫路市教育委員会教育長



昭和24(1949)年、香寺町(現姫路市)出身。兵庫県教育委員会高校教育課指導主事、教育企画室長、県立姫路西高校校長などを経て、平成22(2010)年から現職。

連携・協働で人間力や教師力を高める

姫路市では、平成20(2008)年度末に教育創造プログラムを策定し、授業力・人間力などとともに教師力を高めることを重点目標に取り組んでいます。教員のライフステージや職能に応じた研修が可能となるよう講座内容の精選や改善を図りながら、実践的指導力や学級・学校運営能力の向上に努めていますが、これまでの姫路市教育を振り返る時、兵庫教育大学の協力と連携支援を抜きにしては語れません。とりわけ、小中一貫教育の導入時や学校現場における課題教育の取組において兵庫教育大学の多くの先生方のお力添えをいただき、感謝しています。

「教育は人なり」とは言い古された言葉ですが、子どもの心に寄り添いながら子どもと共に成長していく教員であってほしいものです。そのためには教育への熱い思いと深い人間力が欠かせません。学校現場は日々自己研鑽に向けた闘いの連続です。私も教育長に就任して3年になりますが、その思いは確信に近いものになりつつあります。教員にとって大学での養成期間よりも、その後の

教職生活の方がずっと長いことから、資質・能力の向上方策についてどのような制度設計を打ち出すかがその後の成否の鍵となります。

そう考えると、教育長の果たす役割と責任もこれから益々大きくなるでしょう。学校現場の取組の実践や成果を検証し、真に実効あるものにするためには大学や教育専門機関、とりわけ教職大学院との連携がこれまで以上に重要になります。教育委員会と大学がそれぞれの責任を果たしながら、両者の連携・協働を通して教員の養成、継続的な学習に対する支援に不断に取り組んでいくことが不可欠です。附属学校における人事交流もそうした双方向のベクトルの中に位置づけられると考えます。また、学部生の皆さんには、ボランティアやスクールアシスタントなど、小・中学校の学校現場や地域活動等の様々な場面において子どもたちの学びや自立を支援する活動にもっとも積極的に関わって自らの適性を磨いていただけたらと願っています。

開学
35周年
特集

専攻・コース編成から見える 教育ニーズの変遷

兵庫教育大学開学（10月1日）

大学院学校教育研究科（修士課程）

2002 (平成14年)	2000 (平成12年)	1996 (平成8年)	1982 (昭和57年)	1981 (昭和56年)	1980 (昭和55年)	1978 (昭和53年)
					学校教育専攻	
					教育基礎コース	
					教育経営コース	
					教育方法コース	
					生徒指導コース	
	幼年教育コース				幼児教育専攻	
教育臨床心理コース	教育臨床コース					
					教科・領域教育専攻	
					言語系コース	
					社会系コース	
				自然系コース		
				芸術系コース		
				生活・健康系コース		
	総合学習系コース					

教育臨床コースの増設
学校教育現場等のニーズに応え、臨床心理学的な教育・研究を行うために開設

総合学習系コースの増設
学習指導要領の改訂によって新設された「総合的な学習の時間」に対応するために開設

大学院連合学校教育学研究科（博士課程）の設置
教育実践学を確立し、今日の教育課題の解決と学校教育の質的改善等に資することを目的に、兵庫教育、上越教育、岡山、鳴門教育の4大学が連合して構成するわが国初の教員養成系博士課程を設置

第1回大学院修士課程入学式（昭和55（1980）年度）



		学校教育実践学専攻 (修士課程)	大学院連合学校教育学研究科 (博士課程)
		教科教育実践学専攻 (修士課程)	
		学校教育専修	学校教育学部 (初等教育教員養成課程)
学校教育系コース			
幼年教育系コース		幼児教育専修	
教育臨床系コース			
		教科・領域教育専修	
言語系コース		言語系専修コース	
社会系コース		社会系専修コース	
自然系コース		自然系専修コース	
芸術系コース		芸術系専修コース	
生活・健康系コース		生活・健康系専修コース	
総合学習系コース			

◎大学院神戸サテライト開設

兵庫教育大学は昭和53（1978）年に開学し、55（1980）年に大学院修士課程を設置。その後、学校教育学部や連合大学院博士課程、教職大学院でも順次、学生を受け入れてきました。学校現場の課題やニーズ、教育政策などの変化にも応じながら、時代に即した教員養成に取り組み続けています。

この間、専攻・コース等は学校現場のニーズや状況等、時代に応じて変化しており、平成23（2011）年度以降も修士課程の全面的な改組や教職大学院におけるコース名の変更を行っています。これらの変遷は、兵庫教育大学が教師教育のトップランナーを目指し、明瞭なミッションを背景

に、学校教育に関する理論と実践を融合した教育実践学を進め、教員の資質向上に常に努めていることを示しています。また、大学院での履修形態の多様化に対応して、教職に従事しながら夜間においても履修できる昼夜間講制を取り入れ、神戸市中心部に神戸サテライトを設置し、社会人等

のキャリアアップにも貢献してきました。今年4月にはサテライトの機能を拡充し、神戸ハーバーランドキャンパスとして開設しました。今後も、時代に対応した現職教員の資質向上と新人教員養成にふさわしい専攻・コースの在り方を考えていきたいと思っています。